犬ヶ岳・津民川地域のこけ植物・地衣類群落

犬ヶ岳を中心に，野峠から雁股山にかけての稜線は，ブナ林およびブナを切った後に出来たミズナラやシデ類等の林，また，標高が下がるとアカマツやコナラの林が見られます。この稜線一帯に加え，津民地域で山国川の川岸を調査した。それは，この川岸の岩上に，日本全体から見て特に珍しい地衣類が報告されていたからです（英彦山及びその周辺地域の地衣類　1998，柏谷博之・大村嘉人・梅津幸雄）。

ヒモウメノキゴケ－クロアシゲジゲジゴケ樹皮着生群落

英彦山から犬ヶ岳にかけての一帯は，全般的に地衣類の種類や広がりが貧弱で，この南方の酒呑童子山とも共通します。両者は西からの季節風を直接受けやすく，大気汚染に弱いサルオガセの仲間も点在に留まることから地球規模での大気汚染の影響が心配されます。ヒモウメノキゴケは広くブナ林に共通します。しかし，クロアシゲジゲジゴケは県下では時々見られる程度だが，ここでは，かなり高い割合で見られます。なお，九州で初めて採集された種も報告されています。

クロアシゲジゲジゴケ（右端は裏側）
樹皮に付着する部分（足＝偽根）が黒色

ヤグラゴケ
地衣体の途中から地衣体が伸びている

尾根の凝灰岩上の群落

野峠から一ノ岳に向かう途中の凝灰岩の岩場に，地衣類ヤグラゴケ，ヤマトキゴケ，ウスイロキクバゴケ，こけ植物ケギボウシゴケ，ミヤマスナゴケ等による群落があります。ここでは，地衣類イワアバタゴケが日本で２番目の産地として報告されています。

地衣類の宝庫，川岸の凝灰岩上の群落

ケギボウシゴケ－ウスイロキクバゴケ群落

津民地域の山国川右岸に，凝灰岩の岩盤が複雑な凹凸を造り，さらに不規則な溝状に浸食された川原が広がっています。こけ植物ケギボウシゴケは，岩面の三分の二以上を被い，岩の露出部に地衣類ウスイロキクバゴケが生育しています。岩の側面に生育するモクズゴケモドキは，長野県木曽郡で1928年に採集された標本のみでした。サイゴクタテゴケも日本で２番目の産地で，この他，九州で初めての種もあります。地域の宝として見守りましょう。

モクズゴケモドキ

ウスイロキクバゴケ
地衣類の成長は遅く，広がりは年にミリメートル単位と見られています。

ケギボウシゴケ（左側は湿った状態）

クシノハサルオガセ－コナカワラゴケ群落

この川原の上端に高さ数メートルの凝灰岩の巨岩があり，頂上部の溝の側面にクシノハサルオガセが良好に生育を保っています。大気汚染にとても弱い種ですので，自動車の排気ガスが心配で，周辺の木々を大切にすることも大事です。

クシノハサルオガセ

巨岩の頂上部